

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では、学科学生・編入学生・専攻科学生のアドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料4-1-①-1～3）。

アドミッション・ポリシーの決定については入学試験委員会において、その広報については入学試験委員会、入試対策室、広報・交流委員会において実施している（資料4-1-①-4）。

本校教職員に対しては教職員会議等でアドミッション・ポリシーを周知しており（資料4-1-①-5）、アンケートによって周知されていることを確認している（資料4-1-①-6）。

将来の学生を含めた社会に対しては、アドミッション・ポリシーを明記した入学案内及び学生募集要項（資料4-1-①-1～3）や刊行物（資料4-1-①-7）を、受験生及び三重県下全中学校、三重県に隣接した滋賀県・岐阜県・愛知県・和歌山県・奈良県の地域の中学校、三重県内教育委員会、学習塾や説明会参加学生・教員に配布するとともに（資料4-1-①-8）、本校ウェブサイトにおいても公開している（資料4-1-①-9）。

さらに、中学校主催の進路説明会、本校主催の学校見学会・入試説明会、本校における受験希望中学生及び保護者と本校教員が面談する受験相談を実施し（資料4-1-①-10, 11）、中学生・保護者・中学教諭・学習塾などへアドミッション・ポリシーを分かりやすく説明している（資料4-1-①-12）。

学科入学生選抜のアドミッション・ポリシー

2. アドミッション・ポリシー（学科入学者受入方針）

（1）求める入学志願者像

- ・自然科学に興味をもち、将来の科学技術の発展に夢を抱く人
- ・自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人
- ・何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人

（2）入学者選抜方針

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。

入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、推薦による選抜と学力による選抜を行います。推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれたコミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜します。

学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験を行い、合計点を評価して選抜します。

（出典 平成24年度学科学生募集要項p. 2）

編入学生選抜のアドミッション・ポリシー

2. アドミッション・ポリシー（編入学生受入方針）**（1）求める編入学志願者像**

- ・ 科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人
- ・ 自らの向上を目指して継続的に自己学習ができる人
- ・ 論理的に物事を考えることができる人
- ・ 何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人

（2）入学者選抜方針

本校では、「世界に羽ばたく創造的なエンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。

入学者の選抜は、筆記試験及び面接試験の結果を総合して行います。

筆記試験においては、実践的・創造的技術者教育に必要な科目を十分理解できる学生を選抜するため、基礎となる英語、数学、学科個別科目の試験を行います。学科個別科目については、工業系高校、普通高校を含めた各課程の学生に対応するため、学科別専門科目と物理・化学・生物からの選択制になっています。

面接試験においては、科学技術や工学を学ぶ意欲、適性を総合的に評価します。

（出典 平成25年度編入学生募集要項p. 2）

専攻科入学生選抜のアドミッション・ポリシー

II アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

（1）求める志願者像

- ・ 科学技術に興味をもち、その発展に夢を抱く人
- ・ 自らの向上を目指して継続的に自己学習ができる人
- ・ 豊かな想像力と何事にも積極的に挑戦する行動力をもった人
- ・ 論理的に物事を考えることができる人
- ・ 広い視野を持ち、国際社会で活躍できる人

（2）入学者選抜方針

本校専攻科では、科学技術の分野で国際的に活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性を持った学生の選抜を基本とします。

このため、学校長推薦による選抜および社会人特別選抜においては、自然科学に対する興味や論理的思考能力などの適性、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、専門分野に関する基礎知識などを面接試験により評価し、推薦書（社会人特別選抜の場合は業績調書）および調査書の内容と併せて総合評価します。

学力選抜においては、国際的に活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識を TOEIC (Test of English for International Communication) のスコア (TOEIC I Pを含む) と数学の筆記試験により評価し、面接試験による意欲、適性、人物および専門基礎知識の評価と併せて総合評価します。

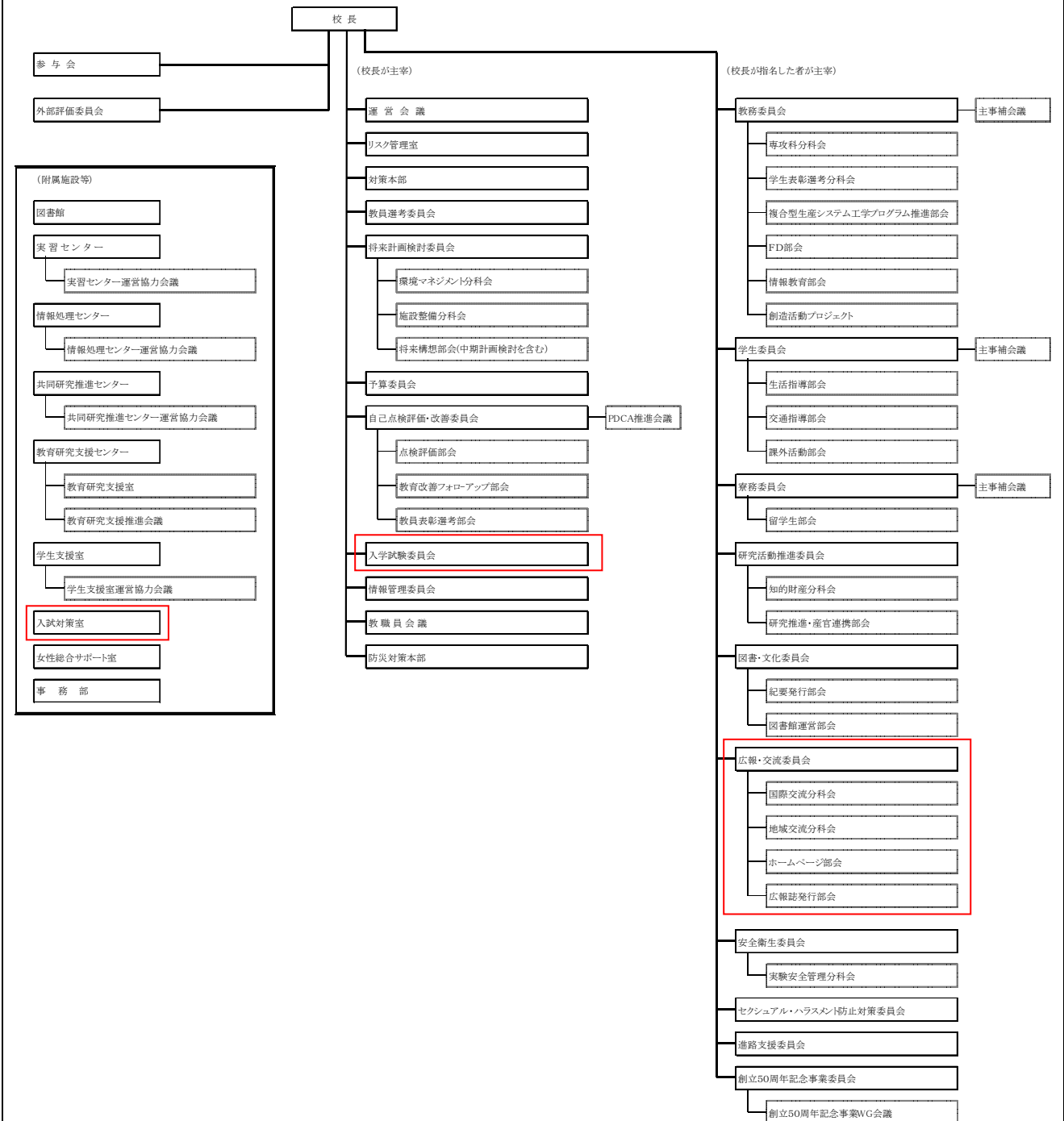
(出典 平成25年度専攻科学生募集要項p. 1-2)

資料 4 - 1 - ① - 4

入試関連組織体制

平成24年度実施体制組織図

平成24年4月1日現在



鈴鹿工業高等専門学校入学試験委員会（以下「委員会」という。）の実施要項を次のとおり定める。

第 1 委員会は、次に掲げる事項を処理する。

- (1) 入学者選抜の基本方針の策定に関する事。
- (2) 学生の募集方針の策定に関する事。
- (3) 入学試験の実施方針の策定に関する事。
- (4) 入学者の選考方針の策定に関する事。
- (5) 入学候補者を決定する事。
- (6) その他入学者の選抜に関する事。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 入学試験委員会実施要項 抜粋）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 7 条の規定に基づき、入試対策室（以下「対策室」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第 2 条 対策室は、次に掲げる業務を処理する。

- (1) 入学者選抜の調査研究に関する事。
- (2) 学生の募集及び広報に関する事。
- (3) 入学者の選抜方法等に関する事。
- (4) その他対策室の運営に関する事。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 入学試験委員会実施要項 抜粋）

資料 4 - 1 - ① - 4 続き

別表第 1 (第 4 条第 1 項関係)

区分	任 務	組 織	事務担当
(略)	(略)	(略)	(略)
入学試験委員会	入学者選抜に関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 主事及び専攻科長 (3) 教養教育科長、学科長 及び専攻主任 (4) 入試対策室長 (5) 事務部長	学生課

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 運営規則別表 1 抜粋)

別表第 2 (第 4 条第 2 項関係)

区分	任 務	組 織	委員長	事務担当
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
広報・交流委員会	校長の諮問に応じ、次の事項について審議する。 (1) 広報及び国際交流活動の基本方針に関すること。 (2) 広報誌の編集発行に関すること。 (3) 各広報媒体の方針等の調整に関すること。 (4) 本校と外国の大学等との交流協定の立案並びに国際交流に関すること。 (5) 学校開放（図書館を除く。）、地域貢献活動（主として研究活動を除く。）及び学校等との連携・協力の実施に関すること。 (6) その他校長が必要と認める事項	(1) 主事及び専攻科長 (2) 教養教育科長及び学科長 (3) 附属施設の長 (4) 総務課長及び学生課長 (5) その他校長が必要と認めた者	校長が指名した者	総務課

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 運営規則別表 2 抜粋)

アドミッション・ポリシーを記載した刊行物

平成24年度 学生募集

こんな学生を 待っています

- 1** 自然科学に興味をもち、
将来の科学技術の発展に夢を抱く人
- 2** 自らの向上をめざして
継続的に自己学習ができる人
- 3** 何事にも積極的に
挑戦する意思と意欲のある人

推薦による入学者の選抜

募集人員：各学科18名程度
 願書の受付：平成24年1月10日(火)～1月13日(金)
 検査日：平成24年1月21日(土)
 検査会場：鈴鹿工業高等専門学校
 選抜出願資格：内申点が110点以上
 選抜の方法：在籍中学校長の調査書および面接等により総合的に判定します。
 合格者発表：平成24年1月31日(火)
 推薦で不合格となった場合でも、学力による選抜の受験ができます。

学力検査による入学者の選抜

願書の受付：平成24年2月1日(水)～2月8日(水)
 検査日：平成24年2月19日(日)
 検査会場：鈴鹿工業高等専門学校、伊賀会場、甲賀会場、
鳥羽商船高等専門学校
 選抜の方法：学力検査(理科、英語、数学、国語、社会)の結果で判定します。
 合格者発表：平成24年2月29日(水)

本校への交通機関



本校は近鉄名古屋線白子駅の北西2.5kmのところまに位置しています。近鉄白子駅下車、白子駅西口から三重交通バス平田町行・鈴鹿サーキット行に乗車約10分、東旭が丘3丁目下車。徒歩約10分。

募集定員

機械工学科	40名
電気電子工学科	40名
電子情報工学科	40名
生物応用化学科	40名
材料工学科	40名

入学時に必要な経費(予定額)

入学科：84,600円
 授業料：117,300円(年額234,600円の前期分)
 合計：201,900円
 授業料は、在籍36ヶ月の期間について申請により就学支援金(年額118,800円)の交付がありますので、その分については減額されます。

上記の他の必要経費

旅行積立金、教育後援会会費	(前期分)	56,200円
新入生合宿研修費、学生会入会金等	(入学時)	22,200円
日本スポーツ振興センター会費等	(1年分)	2,020円
	計	80,420円

入寮生経費

寄宿料、生活費	(前期分)	36,250円
入寮費	(入学時)	4,000円
	計	40,250円

(食費は別途)

入学科、授業料の免除制度があります。

独立行政法人 国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町

学生課
 入試係

TEL.059-368-1739・1731
 FAX.059-368-1738
<http://www.suzuka-ct.ac.jp>

学生募集の詳細については、平成24年度学生募集要項をご覧ください。入学試験に関する問い合わせや鈴鹿高専の見学を希望される場合はお気軽に学生課入試係へご連絡ください。



(出典 2012入学案内パンフレット 抜粋)

資料 4-1-①-8

アドミッション・ポリシーを明記した刊行物の配布先・配布数（平成23年度）

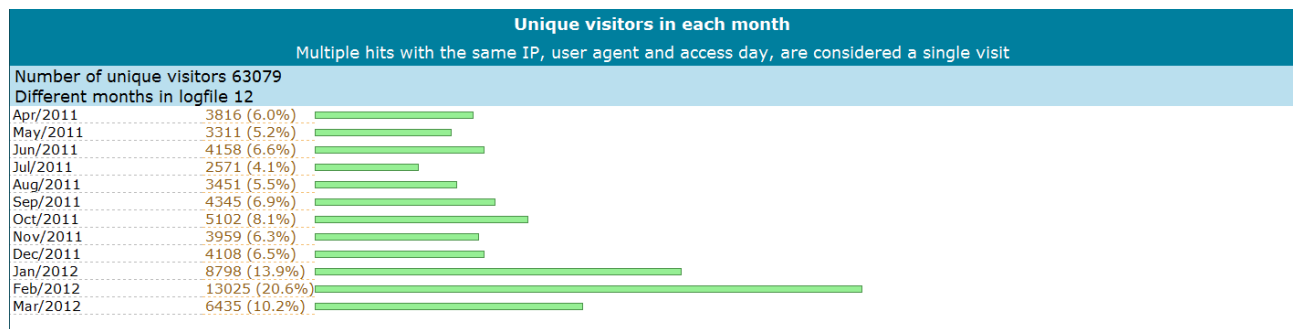
刊行物	配布先	配付数
平成24年度学科学生募集要項	三重県内全中学校、滋賀県・岐阜県・愛知県の三重県に隣接した地域の中学校、三重県・鈴鹿市教育委員会、入学試験説明会参加の中学校教諭、オープンカレッジ参加中学生、入試説明会参加中学生、その他希望者	4,700
平成24年度専攻科学生募集要項	本校5学年学生の専攻科志願者、三重県・鈴鹿市教育委員会、その他学外からの希望者	100
平成24年度編入学生募集要項	三重県内高等学校、愛知・岐阜・滋賀県、大阪市の工業高校、その他志願実績のある県外の高校、三重県・鈴鹿市教育委員会、その他希望者	150
パンフレット「2012入学案内」	国公立全高等専門学校、三重県内全中学校、滋賀県・岐阜県・愛知県・和歌山県・奈良県の三重県に隣接した地域の中学校、三重県・鈴鹿市教育委員会、入学試験説明会参加の中学校教諭、オープンカレッジ参加中学生、入試説明会参加中学生、公開講座等諸行事参加中学生、三重県内学習塾、その他希望者	25,000

(出典 学生課資料)

資料 4-1-①-9

本校ウェブサイトにおける公開とアクセス数（平成23年度）

http://www.suzuka-ct.ac.jp/admission/index.htm



(出典 ホームページ部会資料 抜粋)

資料 4 - 1 - ① - 10

入学者選抜広報活動実施状況（平成23年度）

オープンカレッジ・受験相談 参加者数一覧（平成23年10月1日、2日）

	説明会			受験相談		
	第1日目	第2日目	計	第1日目	第2日目	計
生徒数	217	113	330	28	28	56
保護者等数	166	109	275	28	32	60
計	383	222	605	56	60	116

入試説明会・受験相談 参加者数一覧（平成23年10月22日、23日）

	入試説明会					受験相談		
	第1日目		第2日目		計	第1日目	第2日目	計
	午前	午後	午前	午後				
生徒数	69	13	58	21	161	18	15	33
保護者等数	53	13	58	28	152	18	20	38
計	122	26	116	49	313	36	35	71

入学試験説明会等実施状況

中学校等対象								学習塾対象	
桑名会場	伊勢会場	尾鷲会場		本校会場	計		本校会場		
8月9日 (火)	8月5日 (金)	8月10日 (水)		8月18日 (木)			9月15日 (木)		
校	校	校	生徒数	校	校	生徒数	保護者数	校	人数
9	17	8	4	23	57	4	0	29	53

中学校訪問活動

三重県内殆どの中学校及び滋賀、愛知、岐阜県の近隣の中学校238校にアンケートを実施し、訪問説明の希望があった中学校を訪問

三重県内中学校	13校
滋賀県の中学校	0校
愛知県の中学校	0校
計	13校

(出典 学生課資料)

中学校主催等入試説明会等参加一覧（平成23年度）

開催日		中学校等名	担当（教諭他）	開催時間	出席者	生徒 (名)
5月11日	水	・全国学習塾協会 ・三重県協議会		10:30~14:00	北村 登	
6月13日	月	松阪市・大江中		14:00~14:15	林 浩士	40
6月17日	金	鈴鹿市・平田野中		13:20~14:10, 14:20~15:10	青山 俊弘 田添 文博	30
6月23日	木	度会郡・南島西中		15:00~15:20	末次 正寛	32
6月23日	木	多気郡・明和中		14:05~14:20	黒田 大介	232
6月24日	金	松阪市・飯高西		13:50~14:10	北村 登	17
		松阪市・飯高東		14:45~15:00		49
6月28日	火	松阪市・飯南中		15:30~15:50	箕浦 弘人	36
6月30日	木	多気郡・多気中		14:10~14:20	下野 晃	110
7月4日	月	多気郡・大台中		14:30~14:45	田添 文博	44
7月5日	火	多気郡・勢和中		14:45~15:00	川本 正治	35
9月8日	木	鈴鹿市・鼓ヶ浦中		14:20~15:10	甲斐 穂高	20
9月16日	金	（合同）津市		15:40~16:05	北村 登	
9月16日	金	鈴鹿市・天栄中		13:25~14:15	辻 琢人	16
9月29日		津市・橋南中		14:25~14:40	船越 一彦	186
9月30日	金	津市・豊里中		14:40~14:55	淀谷 真也	144
10月4日	火	津市・東観中		13:45~14:00	下野 晃	130
10月6日	木	（合同）鈴鹿市・亀山市		10:00~10:25	北村 登 山口 清志	
10月6日	木	津市・久居西中		14:35~14:50	川本 正治	103
10月7日	金	（合同）伊賀市		11:00~11:30	北村 登	
10月7日	金	津市・久居東中		15:00~15:15	石谷 春樹	150
10月9日	日	伊勢市・安藤塾		13:00~15:15	北村 登	200
10月12日	水	津市・三重大附属		13:25~13:37	末次 正寛	158
10月13日	木	松阪市・嬉野中		14:40~14:55	箕浦 弘人	130
10月15日	土	桑名市・PTA連絡会		13:00~15:30	黒田 大介 松尾江津子	
10月17日	月	鈴鹿市・平田野中		13:20~14:10, 14:20~15:10	大貫 洋介 西岡 将美	16
10月18日	火	（合同）四日市・三重郡		15:20~15:40	北村 登	
10月18日	火	津市・西郊中		14:25~14:40	柴垣 寛治	160
10月21日	金	津市・南郊中		14:00~14:15	安富 真一	156
10月27日	木	津市・白山中		15:35~15:50	箕浦 弘人	120
10月28日	金	津市・美里中		15:00頃	林 浩士	33
11月3日	水	鈴鹿市・三重私塾の会		10:30~11:15(15分)	北村 登	
11月7日	月	津市・朝陽中		15:50~16:10	淀谷 真也	11
11月8日	火	鈴鹿市・神戸中		13:20~13:50, 14:20~14:50	船越 一彦	36
11月8日	火	松阪市・三雲中		15:45~16:00	田添 文博	153
11月18日	金	伊勢市・五十鈴中		15:30~15:40	石谷 春樹	120

体験授業
太ゴシック
中学教諭、塾講師対象

（出典 学生課資料）

アドミッションポリシー

- 自然科学に興味を持ち、将来の科学技術に夢を抱く人
- 自らの向上を目指して継続的に自己学習ができる人
- 何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人



理科や数学、**ものづくりが好き**で、ちょっとした失敗にもへこたれず自分からすすんで積極的にがんばれる人

ものづくり…例えば、ロボットやソーラーカー、電気自動車の設計・作製、ゲームソフトの開発、人のために役立つ薬品や材料の開発等

～目指す学生像～

創造性が豊かで、実践力があり、さらに国際的にも活躍できる技術者

英語に力を入れています。

(出典 入試対策室資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーを明確に定め、各種刊行物・ウェブサイトで広く社会に公開するとともに、入試説明会・受験相談会などでも説明を行っている。本校教職員に対しても、アンケート結果から周知されていることを確認している。

以上のことから、本校の教職員に十分に周知しており、また将来の学生を含め社会にも十分に公表している。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

<学科入学者選抜>

中学卒業生を受入れる入学者選抜は、「推薦による入学者の選抜」と「学力検査による入学者の選抜」により実施する（資料 4-2-①-1）。

「推薦による入学者選抜」は平成 7 年度より実施し、本校入学を積極的に志向する学生、あるいは学力のみならず特別活動等に実績を持つ多様な学生の受入れに配慮している。推薦による選抜の募集人員は各学科定員（40名）のうち18名程度とし、各学科教員による面接の結果及び出願書類に基づいて選抜している。面接試験においてはアドミッション・ポリシーに沿った質問項目を設けている。その際、教科以外の顕著な活動（生徒会活動、課外活動、創造的活動、ボランティア活動等）に実績を有する志願者については特別に配慮している。「学力検査による入学者の選抜」は、国立高専統一の 5 科目の試験の成績及び中学校の内申書に基づいて選抜を実施している。

これらの評価結果を選抜資料（資料 4-2-①-2）としてまとめているが、実際の資料は訪問調査時の確認資料とする。

<編入学生選抜>

高校卒業生等を受け入れる編入学生選抜では、筆記試験（共通科目（英語・数学）と学科個別科目）と面接試験を課している。筆記試験では、本校の教育を十分理解できる基礎学力の有無を検査するため、試験問題を本校にて作成している。また、学科個別科目では、異なる修了課程の受験生を受け入れるため、学科別専門科目と物理・化学・生物からの選択制としている。面接ではアドミッション・ポリシーに沿った設問項目を設け、意欲、適正の評価を行っている（資料 4-2-①-3）。

これらの評価結果を選抜資料（資料 4-2-①-4）としてまとめているが、実際の資料は訪問調査時の確認資料とする。

<専攻科入学者選抜>

高専の学科卒業生等を受入れる専攻科の入学者選抜は、「学校長推薦による選抜」「社会人特別選抜」及び「学力試験による選抜」により実施する（資料 4-2-①-5）。

「学校長推薦による入学者選抜」については、平成 5 年の設置当初より実施し、本校専攻科入学を積極的に志向する学生の受入れに配慮している。また、「社会人特別選抜」では高専及び短大を卒業した技術者等、多様な学生の受入れを行っている。両者の選抜方法は面接試験とし、専攻科入学後に自分が取り組みたい研究などについてパワーポイント等を使って 5 分程度のプレゼンテーションを行なった後、その発表内容に関連した専門基礎事項の口頭試問を実施している。その際には、アドミッション・ポリシーに沿った質問項目を設け、専門知識のほか、適性、意欲等の評価を行っている。

「学力試験による入学者の選抜」では、上記の面接試験に加えて、平成 24 年度入学試験までは筆記試験（英語、数学）、平成 24 年度入学試験からは筆記試験（数学）と TOEIC のスコアで評価している。

これらの評価結果を選抜資料（資料 4-2-①-6）としてまとめているが、実際の資料は訪問調査時の確認資料とする。

資料 4-2-①-1

アドミッション・ポリシーに基づいた学科入学生の選抜

II. 選抜の方法

入学生の選抜は、「推薦によるもの」と「学力検査によるもの」の二つの方法で行います。

(出典 平成24年度学科学生募集要項p. 11)

III. 推薦による入学生の選抜

6. 選抜の実施方法

選抜は、在籍中学校長から提出された調査書の「各教科の学習の記録（必修教科の評定）」の合計（内申点）、「特別活動等の記録（生徒会活動、部活動等）」を評価した点（特別活動点）及び面接の結果（面接点）を総合して行います。面接では、アドミッション・ポリシーにそって適性、意欲、人物を評価します。

内申点は、135点満点、特別活動点と面接点は合わせて135点満点とし、合計270点満点で評価します。

(出典 平成24年度学科学生募集要項p. 12)

IV. 学力検査による入学生の選抜

4. 選抜の実施方法

選抜は、学力検査（理科、英語、数学、国語、社会）の結果で行います。学力検査では、各教科100点満点、5教科計500点満点で評価します。合格ライン上で学力検査による評価点が同点となる者が出た場合は、在籍（出身）中学校長から提出された調査書の優劣で合格者を決定します。

(出典 平成24年度学科学生募集要項p. 15)

アドミッション・ポリシーに基づいた編入学生の選抜

5. 選抜の方法

入学者の選抜は、筆記試験（英語、数学、学科個別科目）及び面接試験の結果を総合して行います。筆記試験では英語及び数学を各100点満点、ならびに学科個別科目を200点満点で評価します。面接試験ではアドミッション・ポリシーに則って、意欲、適性を100点満点で評価し、筆記試験との合計500点満点で評価します。

(1) 学力検査

学力検査は筆記試験とし、共通科目と学科個別科目について行います。出題する科目及びその範囲は次のとおりです。

共通科目

検査科目	検査時間	出題範囲
英語	60分	英語Ⅰ, 英語Ⅱ (全範囲)
数学	60分	数学Ⅰ, 数学Ⅱ (全範囲)

学科個別科目

学科	検査希望番号	検査時間	検査教科・科目	出題範囲
機械工学科	1	120分	工業・機械設計	1. 機械に働く力と仕事 2. 材料の強さ 3. ねじ 4. 軸とその部品 5. 歯車
	2	120分	理科・物理	物理Ⅰ (全範囲) 物理Ⅱ 1. 力と運動 2. 電気と磁気
理科・化学			化学Ⅰ (全範囲) 化学Ⅱ 1. 物質の構造 2. 化学平衡	
電気電子工学科	1	120分	工業・電気基礎	1. 直流回路 2. 磁気と静電気 3. 交流回路 4. 電気計測
			工業・電子回路	1. 電子回路素子 2. 増幅回路の基礎 3. 負帰還増幅回路 4. 差動増幅回路と演算増幅器 5. 電力増幅回路
	2	120分	理科・物理	物理Ⅰ (全範囲) 物理Ⅱ 1. 力と運動 2. 電気と磁気
			理科・化学	化学Ⅰ (全範囲) 化学Ⅱ 1. 物質の構造 2. 化学平衡
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

※ 学科個別科目は、選択となっているので入学願書に検査を希望する科目の番号を○で囲むこと。機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科は、1・2の内いずれか1つ。生物応用化学科、材料工学科は、1・2・3の内いずれか1つ。

(2) 面接

受験者全員に面接を行います。

(出典 平成25年度編入学生募集要項p. 16-18)

資料 4 - 2 - ① - 4

平成 2 4 年度編入学生選抜判定表

受験 番号	志望学科	在籍(出身)高校	学科個別 科目 1	学科個別 科目 2	英語	数学計	学科個別 科目 1	学科個別 科目 2	学科個別 科目計	学力検査 計	面接 結果	合計	判定

編入学試験面接調査票

受験番号	氏 名	面 接 結 果			特 記 事 項
		意 欲	適 性	評 価	

(出典 平成24年度編入学生選抜判定資料 抜粋)

資料 4-2-①-5

アドミッション・ポリシーに基づいた専攻科入学生の選抜

II 選抜の方法

入学者の選抜は、次のとおり行います。

選 抜 区 分	選 抜 期 日
学校長推薦による選抜	平成 24 年 5 月 26 (土)
社会人特別選抜	
学力試験による選抜	平成 24 年 6 月 16 日 (土)

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項p. 8)

III 学校長推薦による選抜**4 選抜の実施方法**

入学者の選抜は在籍学校長からの推薦書と調査書および面接試験を総合評価して行います。面接試験では受験者が専攻科入学後に行いたい研究等について、パワーポイント等を用いて5分間程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項等についての口頭試問が課せられます。その結果をアドミッション・ポリシーに則り、意欲、適性、人物および専門基礎知識の観点から200点満点で評価します。

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項p. 9-10)

IV 社会人特別選抜**4 選抜の実施方法**

入学者の選抜は出身校の調査書と勤務先等での業績調書および面接試験を総合評価して行います。面接試験では受験者が専攻科入学後に行いたい研究等について、パワーポイント等を用いて5分間程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項等についての口頭試問が課せられます。その結果をアドミッション・ポリシーに則り、意欲、適性、人物および専門基礎知識の観点から200点満点で評価します。

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項p. 12)

V 学力試験による選抜

4 選抜の実施方法

入学者の選抜は、筆記試験（数学）、TOEICのスコア及び面接試験の結果を総合して行います。

(1) 筆記試験

数 学

微分・・・一変数および多変数の微分とその応用

積分・・・一変数および多変数の積分とその応用

微分方程式・・・常微分方程式

線形代数・・・ベクトルと図形、行列と行列式

(2) 面接試験

面接試験においては、受験者が専攻科入学後に行いたい研究等について、パワーポイント等を用いて5分間程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項等についての口頭試問が課せられます。

(3) 評価の方法

筆記試験（数学）及びTOEICスコアは、各100点満点で評価します。面接試験はアドミッション・ポリシーに則り、意欲、適性、人物および専門基礎知識の観点から40点満点で評価し、筆記試験（数学）及びTOEICスコアとの合計240点満点で評価します。

なお、TOEICスコアの換算方法は以下に例示します。

TOEIC	290 以下	300	320	350	380	400	450	500	550	600	700	800	860 以上
換算点	0	13	28	44	56	60	65	70	75	80	88	96	100

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項p.15-16)

資料 4 - 2 - ① - 6

平成24年度専攻科入学生選抜判定表

学力選抜

受験番号	TOEIC(受験日)	順位	英語	数学	小計	面接結果	合計	判定

推薦選抜

受験番号	クラス順位					TOEIC		備考	面接結果	判定
	1年	2年	3年	4年	5年	11.5	備考			

面接試験調査票

受験番号	氏名	面接結果				特記事項			備考		
		意欲	適性	人物	専門基礎知識 評価	TOEICの 最高点/ 目標点	長期インター シップ	特別研究	専願・併願 (大学名)(志望順位)	大学院進学 の有無	入寮

(出典 平成24年度専攻科学生選抜判定資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

学科入学生学力選抜においては国立高専の統一問題を使用しているが、学科入学生推薦選抜及び編入学生選抜、専攻科入学生選抜においては、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受入れるために、質問項目・配点・実施方法などを設定している。

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生受け入れ方法のもとに、入学者選抜を適切に行っている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが実際に行われているかの検証や入学者選抜の改善は、入学試験委員会及び入試対策室で行っている（資料 4-1-①-4）。そして、入学試験委員会及び入試対策室において、入学生の成績の追跡調査、調査書の評価基準の検討（資料 4-2-②-1）、担任による第 1 学年学生の評価（資料 4-2-②-2）など、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかを検証するための取り組みが行われており、選抜の改善に役立てている。

入学生の追跡調査では、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかを評価するために、選抜の成績と入学後の成績の相関を調査したが、相関は見いだせなかった。そのため、試験の成績によって評価するのではなく、1 年間学生と深く接した担任による検証を実施した。その結果、アドミッション・ポリシーに当てはまっているか検証できた学生の内、「当てはまっている」と評価された学生は約 70% であり、概ねアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われていた。一方で、アドミッション・ポリシーに当てはまっているか「分からない」と評価された学生が約 25% であった。そのため、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかをより明確に検証できる方法を引き続き検討している。

資料 4-2-②-1

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが実際に行われているかの
検証や入学者選抜の改善に関する議事録等

- ・平成20年度第4回入試対策室会議議事要旨
- ・平成22年度第3回入試対策室会議概要
- ・平成23年度第6回入試委員会議事要旨

(実際の資料は、訪問調査時の閲覧資料とする)

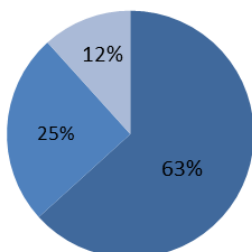
資料 4-2-②-2

担任による第1学年学生の評価 (平成23年度)

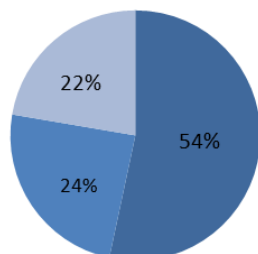
ご担当のクラスの学生をながめていただき、下記のポリシーを満足する学生がどの程度いるかをお答えください。

- | | |
|----------------------------|---------|
| ・自然科学に興味を持ち、将来の科学の発展に夢を抱く人 | |
| 当てはまっている、ほぼ当てはまっている | _____ % |
| わからない | _____ % |
| 当てはまっていない、当てはまっているとは思えない | _____ % |
| ・自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人 | |
| 当てはまっている、ほぼ当てはまっている | _____ % |
| わからない | _____ % |
| 当てはまっていない、当てはまっているとは思えない | _____ % |
| ・何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人 | |
| 当てはまっている、ほぼ当てはまっている | _____ % |
| わからない | _____ % |
| 当てはまっていない、当てはまっているとは思えない | _____ % |

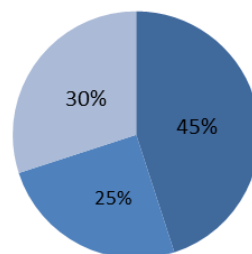
自然科学に興味を持ち、将来の科学の発展に夢を抱く人



自らの向上をめざして継続的に自己学習ができる人



何事にも積極的に挑戦する意思と意欲のある人



■ 当てはまっている
■ わからない
■ 当てはまっていない

(出典 入学試験委員会資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているか調査・分析し改善を検討する体制があり、実際に入学後の調査・分析によりアドミッション・ポリシーに沿った選抜が行われているかを検証する取り組みを実施し、改善に役立てている。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

学科、専攻科ともに毎年安定した志願者数及び実入学者数を確保している(資料4-3-①-1, 2)。学科入学者選抜及び専攻科入学者選抜では、それぞれ県立高校及び国立大学等との併願を認めているため、入学定員よりも多くの合格者を発表している。学科学生においては、「志願者意思確認書」により合格者のうち実際に入学手続きを行うであろう学生数を予測し、合格者数を決定している。さらに、第2志望学科を設けることで、より安定的に入学者を確保できるようにしている(資料4-3-①-3)。なお、実入学者数の適正化手順については、訪問調査時の確認資料とする。

専攻科入学者については、推薦入試選抜において優秀な学生を確保するため、定員近くの学生を合格者としている。その後に行う学力選抜において、大学併願受験の学生に対して合格を発表するため、定員を上回る学生が入学している。特に平成23年度においては、増加した志願者に応えるため、入学定員に対して多くの学生を受け入れている。このことに対応する教職員の人数や教育設備の量について不足はないことを確認すると同時に、教育の質・学生サービスの確保について申し合わせた(資料4-3-①-4)。

資料 4-3-①-1

学科学生 入学定員・志願者数・受験者数・合格者数・入学者数

年度	学科名	定員	志願者総数	倍率	推薦による 入学者の選抜			学力検査による 入学者の選抜			入学者数		
					志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	推薦	学力	計
20	機械工学科	40	159	4.0	49	49	20	139	136	38	20	23	43
	電気電子工学科	40	102	2.6	27	27	19	83	79	42	19	22	41
	電子情報工学科	40	154	3.9	32	32	19	135	132	61	19	24	43
	生物応用化学科	40	190	4.8	48	48	20	170	163	61	20	24	44
	材料工学科	40	154	3.9	47	47	20	133	130	38	20	24	44
	計	200	759	3.8	203	203	98	660	640	240	98	117	215
21	機械工学科	40	119	3.0	35	35	20	99	98	48	20	24	44
	電気電子工学科	40	125	3.1	40	40	20	105	99	38	20	24	44
	電子情報工学科	40	134	3.4	42	42	20	113	106	49	20	24	44
	生物応用化学科	40	183	4.6	45	45	20	163	158	75	20	24	44
	材料工学科	40	129	3.2	34	34	20	109	104	44	20	24	44
	計	200	690	3.5	196	196	100	589	565	254	100	120	220
22	機械工学科	40	112	2.8	31	31	20	92	88	43	20	22	42
	電気電子工学科	40	92	2.3	30	30	20	72	68	47	20	22	42
	電子情報工学科	40	135	3.4	38	38	20	115	114	54	20	22	42
	生物応用化学科	40	167	4.2	40	40	20	147	141	77	20	21	41
	材料工学科	40	134	3.4	32	32	20	112	110	42	20	21	41
	計	200	640	3.2	171	171	100	538	521	263	100	108	208
23	機械工学科	40	97	2.4	34	34	20	76	69	43	20	24	44
	電気電子工学科	40	118	3.0	34	34	20	98	96	50	20	24	44
	電子情報工学科	40	134	3.4	39	39	20	114	109	57	20	21	41
	生物応用化学科	40	166	4.2	42	42	20	145	141	67	20	21	41
	材料工学科	40	117	2.9	26	26	19	98	95	59	19	24	43
	計	200	632	3.2	175	175	99	531	510	276	99	114	213
24	機械工学科	40	129	3.2	41	41	20	109	105	57	20	26	46
	電気電子工学科	40	115	2.9	44	44	20	95	89	50	20	26	46
	電子情報工学科	40	124	3.1	35	35	20	104	99	63	20	24	44
	生物応用化学科	40	150	3.8	45	45	20	128	120	76	20	20	40
	材料工学科	40	151	3.8	51	51	20	130	126	55	20	28	48
	計	200	669	3.3	216	216	100	566	539	301	100	124	224

(出典 学生課資料)

資料 4-3-①-2

専攻科学生 入学定員・志願者数・合格者数・入学者数

年度	専攻名	定員	志願者数	合格者数	入学者数	倍率	補欠合格	補欠入学
20 年度	電子機械工学専攻	12	39	22	15	3.3	6	
	応用物質工学専攻	8	21	18	11	2.6	1	
	計	20	60	40	26	3.0	7	
21 年度	電子機械工学専攻	12	44	22	18	3.7	6	2
	応用物質工学専攻	8	10	3	6	1.3	1	0
	計	20	54	25	24	2.7	7	2
22 年度	電子機械工学専攻	12	42	38	22	3.5	3	1
	応用物質工学専攻	8	16	11	7	2.0	3	0
	計	20	58	49	29	2.9	6	1
23 年度	電子機械工学専攻	12	45	33	22	3.8	9	6
	応用物質工学専攻	8	28	28	16	3.5	6	4
	計	20	73	61	38	3.7	15	10
24 年度	電子機械工学専攻	12	39	32	17	3.3	9	2
	応用物質工学専攻	8	15	12	7	1.9	10	0
	計	20	54	44	24	2.7	19	2

(出典 学生課資料)

資料 4 - 3 - ① - 3

学科入学者数の適正化について

(2) 入学意思の確認について

志願者意思確認書に、合格した場合の入学意思について、次の A、B から選択し、必ずいずれかに○印を付けてください。A、B いずれに○印を付けても可否には関係ありません。なお、補欠合格の対象者は A だけとします。

A 鈴鹿高専を第 1 希望とし、合格したら必ず入学する。

B 合格しても入学するとは限らない。

(略)

(4) 第 2 志望学科について

出願期間終了後、第 2 志望学科として選択できる学科がある場合には、選択できる学科を平成 24 年 2 月 13 日 (月) までに本校ホームページに掲載します。

ホームページアドレス [http:// www.suzuka-ct.ac.jp/application.htm](http://www.suzuka-ct.ac.jp/application.htm)

なお、第 2 志望学科として選択できる学科がある場合、希望する第 2 志望学科の確認は学力検査当日の筆記試験終了後に行います。

(出典 平成24年度学科学生募集要項p. 15)

資料 4 - 3 - ① - 4

専攻科入学者に対する対応について

1. 平成 23 年度専攻科入学試験 (学力選抜) の結果について

委員長及び各面接責任者から、同結果について資料に基づき説明があった。審議の結果、電子機械工学専攻受験者 28 名のうち [] 及び応用物質工学専攻受験者 13 名のうち [] を合格とし、また、電子機械工学専攻 [] 及び応用物質工学専攻 [] を補欠合格とすることで了承され、入試委員会に諮ることとなった。なお、委員長から入学者が定員の 2 倍を超える可能性があるため、①より一層教育の質の確保に努めていくこと、②早期の段階から就職・進学支援を図っていくことについて要請があった。

(出典 平成22年度第 3 回専攻科分科会議事要旨 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

学科学生については、適正な人数の実入学生を受け入れている。専攻科学生については、平成23年度においては実入学者数が大幅に超えているが、教員及び教育設備に不足はなく、さらに教育の質や学生サービスを確保することについて申し合わせが行われており、支障は生じていない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

入学者選抜に対するアドミッション・ポリシーを明確に定め、広く社会に公開すると同時に、説明会等で分かりやすく説明している。教職員に対しても周知している。また、アドミッション・ポリシーに沿った選抜を行うことを募集要項に明記し、アドミッション・ポリシーに沿った評価項目を設けることで、アドミッション・ポリシーに沿った選抜を実施している。

アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学していることを検証する体制があり、実際に検証の取り組みを行っている。その結果をふまえて、入学者選抜の改善に役立てている。

実入学者数の実績から、学科入学生の実入学生数が適切であることを確認している。専攻科入学生においては志願者数の増加に 대응するため、教育の質や学生サービスを確保したうえで、定員を上回る入学生を受け入れている。

(改善を要する点)

アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証する取り組みにおいて、より明確に検証し、それを基に入学者選抜に反映するシステムを構築していく必要がある。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校は、教育の目的に沿って学科入学生、編入学生、専攻科入学生ごとに明確にアドミッション・ポリシーを定めている。アドミッション・ポリシーは印刷物の配布や、ウェブサイトへの掲載などにより、広く社会に公開している。また、各中学校主催の進路説明会や本校主催の進路説明会、学校開放事業、学校見学会及び受験相談会等において、受験希望学生及び将来入学の可能性のある地元小中学生などへもアドミッション・ポリシーを分かりやすく説明している。

入学者選抜方法では、内申書審査や面接試験において、アドミッション・ポリシーに沿った評価項目を設けている。また、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証する体制があり、実際に検証と改善を行っている。

学科・専攻科ともに毎年安定した志願者数を確保している。学科学生については、適正な人数の実入学生を受け入れている。専攻科学生については、教育の質や学生サービスを確保したうえで、定員を上回る入学生を受け入れている。

